

(4)ごみ組成調査結果の詳細

以下には、大分類によるごみ組成調査結果の詳細を整理した。

図6に示したように、事務所ビルについては、事務部門、管理部門等紙類の排出が多いと予想される部門と社員食堂、テナントとして入居している喫茶店、レストラン等の飲食関係部門などにより構成されているため、平成29年度調査では厨芥類の割合が重量比で約41%と高かったものが、令和3年度調査では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、飲食部門からの厨芥ごみが減少したため約19%までに低下した。今年度調査では飲食部門からの排出がコロナ禍以前の水準に戻り、厨芥類が約48%まで増加している。次いでティッシュやナプキン等の使い捨て紙(約12%)等の紙類が約27%であった。

一方、容積比では、容器包装がかさばり、プラスチック類が約41%、紙類が約39%を占めていた。

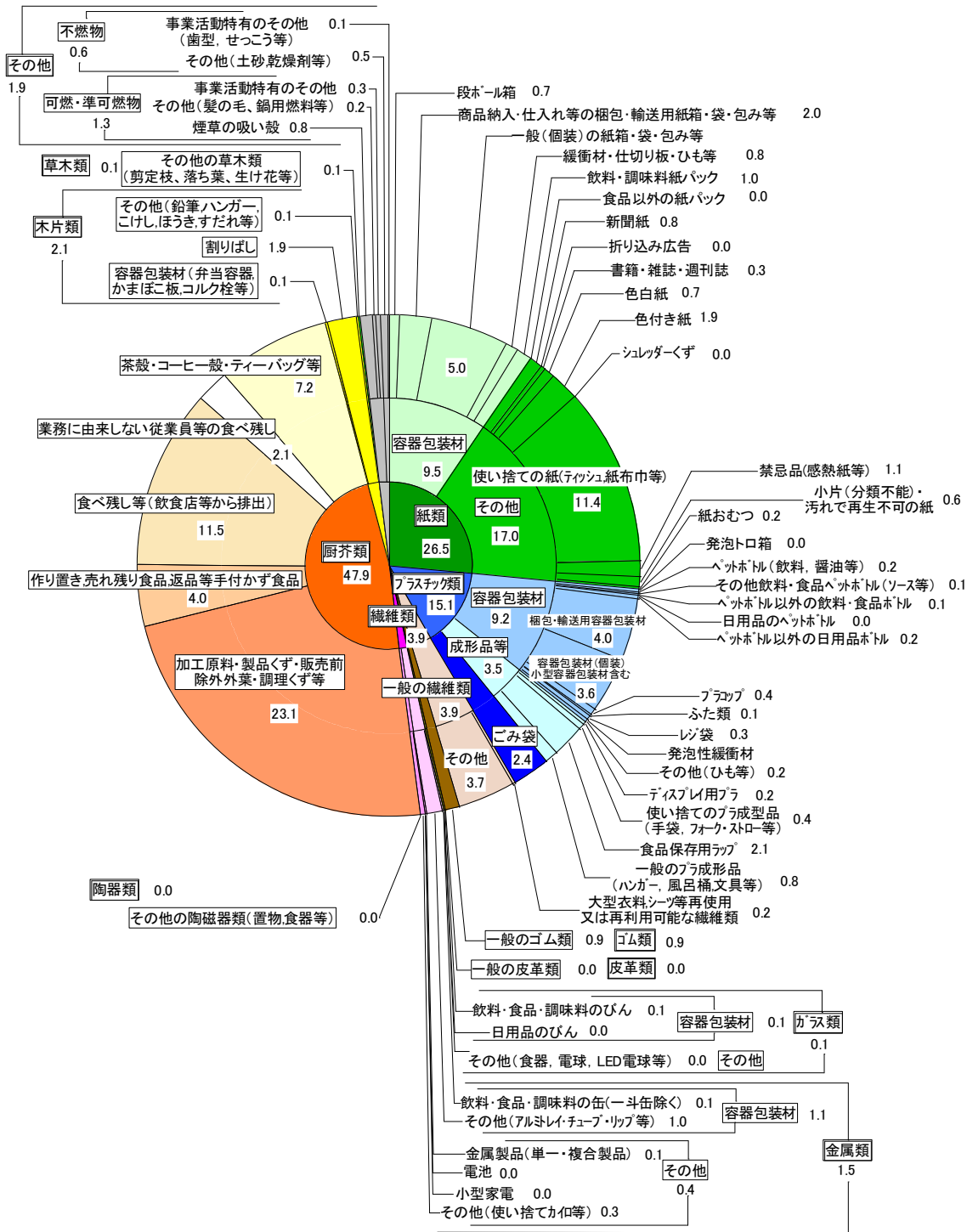
図7で示したように店舗ビルについては、重量比では、厨芥類の割合が約53%と高く、キャベツ等の外葉を主とする「加工原料・製品くず・販売前除外外葉・調理くず等」(約24%)、「食べ残し(飲食店等から排出)」(約13%)、生鮮食品や加工食品の売れ残り食品を主とする「作り置き、売れ残り食品、返品等手付かず食品」(約10%)などとなっている。

また、紙類では「使い捨ての紙(ティッシュ, 紙布巾等)」が約10%、「一般(個装)の紙箱・袋・包み等」が約5%などとなっていた。

一方、容積比では、容器包装材により、紙類やプラスチック類の割合が高くなっていた。

図6 事務所ビル(大分類)

【重量比】



【容積比】

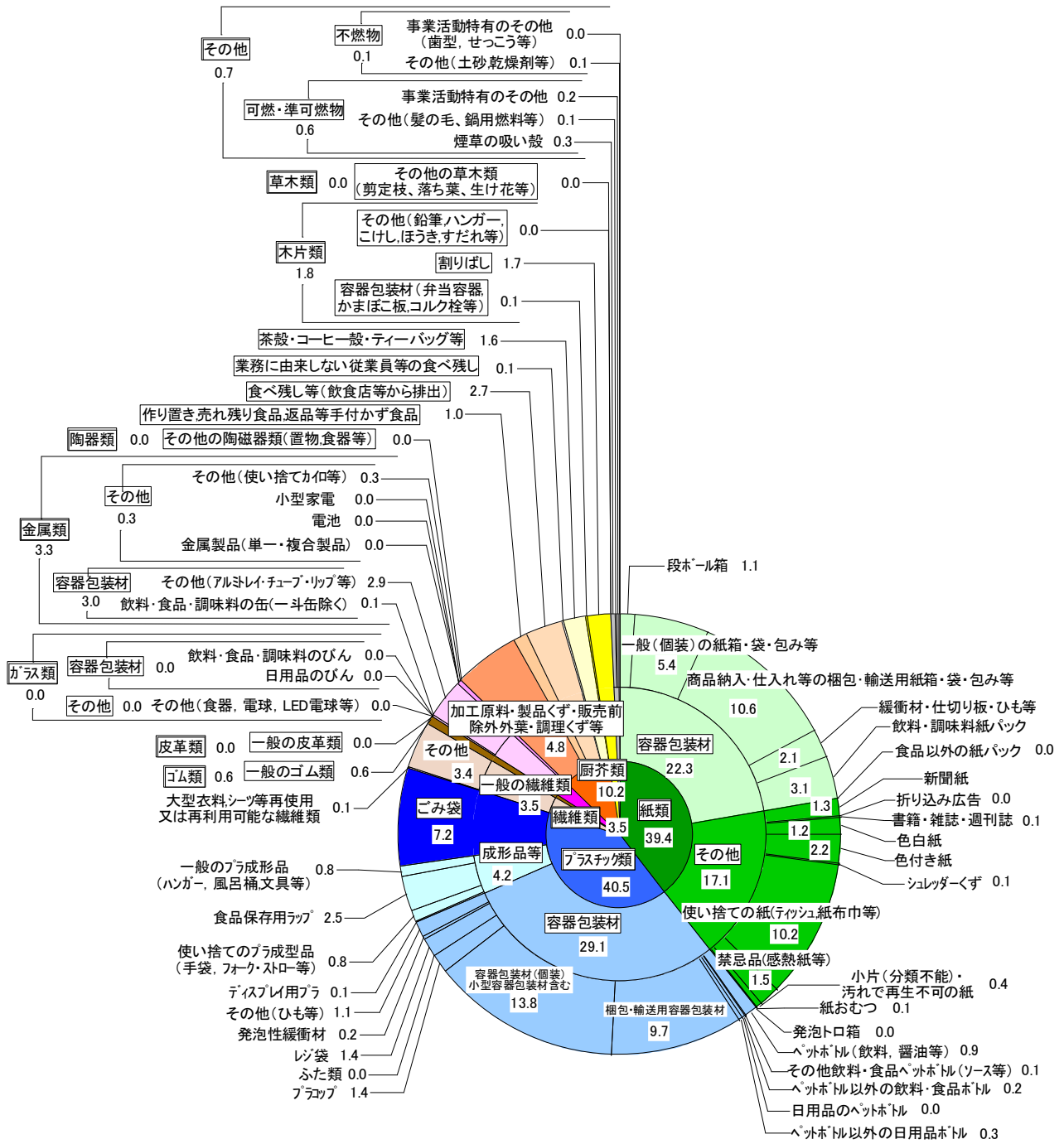


図7 店舗ビル(大分類)

【重量比】

